

【1月】
成人式 3日
資料館体験教室 10日
高森★みらい議会 22・29日
白井一幸氏講演会 24日
柿の里ひろば
落合恵子氏講演会 25日

【2月】
ペタンク大会 1日
シニア大学閉校式 18日

【3月】
明治の小学校めぐり 1日
幼虫ホテルの放流 10日
新スポーツ体験教室
「スラックライン」 22日
資料館雛人形と美人画展
1日～31日

【4月】
社会教育指導員交代 1日
公民館初顔合わせ 22・23日
スポーツ少年団結団式 25日
松岡城址新緑の会 26日
高森町植樹祭 28日
市町村対抗駅伝大会 29日

【5月】
夜間ソフト開会式 7日
天白グラウンド芝生化
オープンイベント 10日
明治大学
マンドリン演奏会 16日

【6月】
BUNKAXILE
文化ザイルスタート 13日
シニア大学開校式 18日
天伯峽ほたる祭 20日
柿の里短歌フォーラム 27日
町消防団操法大会 28日

【7月】
社会を明るくする運動1日
公民館スポーツ大会 5日

シニア大学 16日
広島平和バス結団式 18日
教育を語る会 25日
育成会交流ふれあい
キャンプ 26・27日

【8月】
親子体験教室 1日・2日
ちびっこなつまつり 2日
広島平和バス 5～7日
島岡野球教室 9日
戦没者追悼平和祈念式典
15日

盆野球大会 16日
京都大学演奏会 21日
島岡吉郎旗中学生
野球大会 22・23日
自然体験教室 23日
広島平和バス
報告会・平和学習会 29日

【9月】
シニア大学 3日
狼煙上げ 5日
町民ゴルフ大会 13日
島岡吉郎旗小学生
野球大会 20日

【10月】
シニア大学社会見学 2日
(町民運動会雨天中止 11日)

【11月】
柿の里ウォーキング 3日
松岡城址秋を観る会 8日
文化祭 14・15日
まるごと収穫祭 14・15日
町駅伝大会 22日

【12月】
バレーボール
Vリーグ開催 5・6日
福祉センター大掃除 7日
社会体育施設大掃除 12日
公民館大掃除 13日

2015
今年の主なニュース



スーパームーンと初雁

本紙が選ぶ 2015年 5大ニュース



建設地選定をめぐり、一時、事実上凍結状態となるなど紆余曲折があり、当初計画からずれ込んだが、苦節6年ようやく形になり、7月に吉田・月夜平に完成した。

鉄筋コンクリート2階建て、火葬炉2基・告別室・収骨室・待合室がある。待合室とエントランスからは南アルプスの山並みを望む



発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田 高森町公民館
発行人
大 洞 利 雄
☎35-8211
印刷所
龍共印刷株式会社

下伊那北部公葬場オープン

愛称は公募の中から「五稜の森」となった。

五は北部5町村を示し、稜は山の稜線のことで、亡くなられた方の魂が各町村の五稜を巡り旅立つ様を表す。

事ができ、周辺も草花により緩衝緑地として活用されている。

戦後70年 平和を願う 取り組み



戦後70年の節目の今年、町は様々な取り組みを通して、平和への願いを新たにしました。

京都大学交響楽団を迎えての「戦後70年特別企画コンサート」には約1000名が詰め掛け、108名の楽団員による迫力ある演奏を楽しみました。

また、27回目を迎えた「広島平和のバス派遣団」

各界の有名人が 高森町に来了

1月には野球チーム北海道日本ハムファイターズ、内野手コーチの白井一幸氏が「やる気を出すコミュニケーション」と題して野球に関わってきた経験を力強く講演していただきました。

6月には「三屋裕子の健康寺子屋」で元全日本バレーボール代表選手、三屋裕子氏が健康・栄養・休養の大切さ、生活の中に運動を取り入れる大切さを講演していただきました。

「高森町若者の集い」では、やくみつる氏が

には、33名が参加しました。その報告会が行われた日は、「平和学習会」戦争が起きたとき、故郷では」も開催され、実体験からのお話や「戦時中の高森町」満州の実情から」と題した講演がありました。

会場には歴史民俗資料館で開催されていた、ミニ平和展の一部も展示されました。

天白グラウンドが芝生化！

本年、天白グラウンドが芝生化され、生まれ変わりました。草種は寒地型の「ケンタッキーブルーグラス」他4種混合で、冬でも緑色を保てるのが特徴です。管理は、NPO法人「南信州クラブ」が主体となり、ラグビーチームの子供や保護者などが行っています。

ラグビーといえば、今年イングラウンドで開催された第8回ラグビーワールドカップ。日本チームが3勝し、一躍ラグビー人気が高まりました。このグラウンドで、思いっきり練習して、将来、



高森町からも五郎丸選手のような日本代表選手が誕生することをお願いいたします。

三面鏡

町内の至る所で、柿すだれが風景に色を添え、冬の訪れを感じさせてくれます。手間ひまをかけて作られる『市田柿』は

言わずと知れた名産品ですが、貴重な栄養源でもあります。人は食べなければ死んでしまいます。動物や植物など他の生き物の生命をいただくことで生きています。一方で、いまの日本は飽食の時代が続いています。豊かな食べ物に囲まれているながらも、「美味しいものが食べたい、おなかいっぱい食べたい」と感じるのは、食べ物を軽視しているように思えます。食べ物を捨てるのは、もったいないという気持ちを忘れていくのではないのでしょうか▼「もったいない」とは、物の本来あるべき姿がなくなること

を惜しむ言葉です。食の本来あるべき姿、それは食べ物となった動物や植物の生命のことです。食べ物を捨てることは、動物や植物の生命を無駄にするということです。年末年始とご馳走にあずかる機会が増えますが、普段あまり意識をしていない食べることの大切さについて、思いをめぐらせてみてはどうでしょうか▼寒空をふと見上げると、桜の木に少し早い春仕度を感じさせられました。小さな蕾がで



平成27年度 公民館文化祭

展示発表

今年の展示発表には、25の団体から出展がありまし
ました。書道・水墨画・美人
画・絵手紙・写真・手芸・
アレンジフラワーなど多彩
な分野で力作を見ることが
できました。日頃の勉強・
努力の積み重ねがなければ
できないだろうと思われる
作品ばかりで、すっかり見
入ってしまいました。

ベスト・帽子・えりまき
などを製作し、展示・販売
をしていた編物クラブの女
性にお話を聞きました。
「月に1回、6人から、
多い時で10人くらい、昼食
におむすびを持って集まり、
お互い教え合って作るんだ
に」と楽しそうでした。

高森町自然愛護会主催の
キッズサイエンスクラブで
は、「人間やじろ
べえ」の展示と試
乗会を体育館で行
いました。やじろべえはお
もりの役
目をする人
が同じく
の男の子
の両端に乗
ていざ動
かしてみ
ると左右
に揺れる
さまは、指
の上で揺
らすや
じろべえ
の形の子
と



やじろべえ ゆらり ゆら～り

デジタルフォトカレンダー

11月14日
・15日に「ふるさと祭り」
が催されま
した。みな
さんは公民
館文化祭で
催されてい
る「デジタ
ルフォトカ
レンダー」を
作成したこ
とがありま
す。か。体
験してきま
した。



はい！ポーズを決めて

と正面に自分がどんな様子
でカメラに写っているか見
えるようにしてくれていま
す。また、納得のいく写真
になるまで取り直してもら
えます。あとは完成を待ち
ます。10分程度でできるの
で、その間は別の部屋の展
示を観賞するなどして戻
ることが出来ます。

まず受付をして番号札を
もらいます。何枚作成する
か決め、背面を柿丸君の絵
や高森町の観光地図などの
中から選びます。次に写真
撮影をします。椅子に座る
ミが多いようです。まれに
カラマツ・ヒメコマツ・広
葉樹などで葉が見つかると
もありません。営巣木に選
ばれる木は、高さが25mを
超するような高木で、その真
ん中より高い位置の枝の付
け根に巣が作られることが
多いようです。太い枝を組
み合わせては丸い形をして
います。大きさは直径
約1m、厚さ約5cmととて
も大きな巣です。巣が出来
上がると1個の卵が産みこ
まれ、子育てが始まります。
その後についてはまたの機
会に紹介します。(藪の鳥

まると収穫祭のステー
ジ発表は、2日間にわたっ
て行われました。
2日目のステージは、先
ず「元氣もりもりあったか
広場」から始まりました。
これは、東日本大震災復興
支援ソングの「花は咲く」
を皆で歌って、貢献するこ
という企画です。いくつかの
サークルが壇上で協力し、
来場者全員で歌いました。
「紙ふうせん」の皆さんの
和太鼓演奏や、高森中吹奏
楽部の生徒の演奏もありま
した。
風はやや冷たかったもの
の薄日が差し込んだ頃から、
人ももちろんいます。み
んな楽しそうにポーズを決
めていました。簡単に自分
だけのカレンダーが作れま
す。来年もまた行こう、と
思いました。

ステージ発表

様々な団体の発表が始まり
ました。エネルギーシユな
楽器演奏、味わいのある歌
声、かわいらしくも見事な
ばちさばきを見せる子ども
の和太鼓、思
わず見入って
しまつダンス、
地域で活躍す
る知り合いが
出演するクラ
ブ発表など、
バラエティー
に富んだ内容
でした。また、
若々しさあり
懐かしさあり
で、世代を越
えて楽しむこ
とができました。
来場者は、
仲間の発表に
掛け声をかけ
たり、リズム
に合わせて手拍子を取った
りして応援していました。そ
の中のお一人は、「地域に
根ざして活躍している皆さ
んが、大勢の前で発表の場
を持つことに意義がある」
と、熱心に観賞されていま
した。



みんなで「花は咲く」を歌って

～シリーズ～ 21 クマタカ②

高森町 季節の野鳥



クマタカの雛と巣
(天竜川ダム統合管理事務所提供)

前回と同じクマタカですが、今度
は巣について紹介しましょう。この
鳥は1年中同じ場所に棲み、特別な
ことがない限り毎年同じ巣を使っ
て同じ相手とつがいを組んで子育てを
行うのが一般的です。冬が始まる頃
になると、オスとメスが並んで飛翔
こみます。枯れ枝を足でしっ
かりつかみ、羽をばたつか
せて枝を揺さぶって折るの
です。重い枝なので、巣の
位置より高い位置にある木
から集めてくるようです。巣
をかける木は周りにどんな
木が生えているかによって
違いがありますが、南信地
方ではアカマツやツガ・モ

手作り体験教室

福祉センター
では手作り体験
教室が開かれ、
お手玉・貝ホル
ダー・吹き矢作
りが行われまし
た。
「お手玉」は、
お手玉の会の
方々が指導して
下さり、端切れ
と色とりどりの
玉を使って作り
ます。玉は大・
中・小とあり、
玉の大きさや混
ぜ具合によって
手触りが変わる
とのことで、体

験者は色々試しながら作っ
ていました。また、10級か
ら1級までのお手玉技能試
験を受けることもでき、合
格すると認定証をもらえる
とあって、練習し挑戦する
姿が見られました。
貝ホルダーと吹き矢は教
養部が主催して下さいまし
た。
「貝ホルダー」は、貝殻
に両面テープを貼り、その
上からきれいな糸を巻いて
いき、紐の長さによってス
トラップやネックレスにな
ります。特に女の子に人気
で、少し教われればすぐ作れ
るようになり、2個・3個
と夢中になって作っていま

した。
「吹き矢」は、ビニール
をまるめ、その先端にゴム
を付け矢を作り
ます。完成した
矢はあらかじめ
用意された筒に
通し、筒を吹い
て矢を飛ばしま
す。初級・中級・
上級と的があり、
矢が完成した人
はそれぞれの的
当てに挑戦して
いました。
どのコーナー
も大人から子供
まで賑わい、昔
ながらの物作り



貝殻にきれいな糸を巻いて

を体験し、楽しい時間となっ
たようです。

土器の野焼き行われる

ことで土中のケイ素が溶けてガラス質となり、硬化して水にも溶けなくなる」また「割れないようにするためには徐々に温度を上げる事が大切」とのこと。午前9時30分頃に土器を火の周囲に並べ、徐々に火に近づけ、その後強火にし、午後3時頃取り出しました。胴体にひび割れが入ったもの



外で天日乾燥させました。講師は、飯田市上郷在住で元教員の竹内稔さんと、「時の駅」の芦部公一さんの2名です。最初に野焼きについて説明があり「焼く

焼き上がるまでの待ち時間を利用し「親子探検クイズラリー」を開催。クイズラリーは、約1時間かけて「時の駅」展示室を巡り、全15問の問題の答えを見つけ出し、解答欄に記入。答え合わせし、優秀な人には「高森町BUNKAXILE(ぶんかざいる)博士」の認定証が渡されました。

秋晴れの気持ちいい天気の下、野焼きの隣では焼き芋も行い、実に楽しそうに一日を過ごしていました。

第5回松岡城址・秋を観る会が11月8日に行われました。当日は雨天のため、会場が松源寺境内となりましたが、大勢の方で賑わっていました。

初めに、松岡城址愛護会の宇佐美卓司会長から「町

第5回 松岡城址の秋を観る会

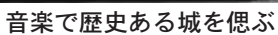
長をはじめとする行政関係の方々、区民や史学会、愛護会の努力と松源寺の協力で演奏会を開くことができました。時間のゆるす限り演奏をお楽しみください」と挨拶があり、関係者を代表して熊谷元尋町長が「歴史的史跡を町でもアピールしていきたい。今後מושつていってほしい」と挨拶がありました。

「心鼓毬 彩」の和太鼓と獅子が演奏され、会場の雰囲気盛り上げました。「松岡城址の風合唱団」の歌声を聴き、「にこにこフレンズ」の二胡演奏では歌謡曲を中心に心地よい音色を響かせてくれました。「子供太鼓 キッズ彩」の元気な演奏、コカリナサークル「かつこう」はハーモニカとの共演で会場を楽しませてくれました。最後に全員合唱で会を閉じました。

参加者からは「松源寺を
会場に演奏会があるのがす
ばらしい！ドウダンツツジ

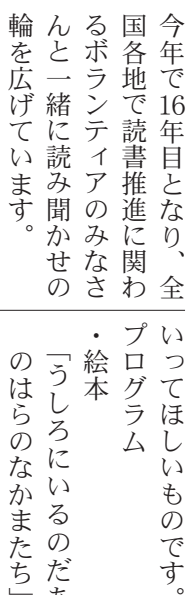
の紅葉もきれい」「今後も演奏会を続けてほしい」などの声が聞かれました。

2年後には松岡氏に関わりのある「直虎」を主人公としたNHK大河ドラマがあるそうです。松源寺や町にも取材に来るのでは？との話もありました。



子どもたちが絵本に親しむきっかけを
全国訪問おはなし隊

10月30日(金)、講談社「本とあそぼう 全国訪問おはなし隊」のキャラバンカーが町役場前にやってきました。町内の親子10数名と吉田保育園の園児65名が集まり、おはなしの世界を楽しみました。



到着したキヤラバンカーの車体には、子どもたちが大好きな絵本の中の主人公たちが大きく描かれ、扉が開くとたくさんさんの絵本が積載されており、まるで夢の世界のようです。

（幻冬）
「どうぶつサーカスはまるよ」
（福音）
「ブービーとすべりだ」
（講談）
「しろくまちゃんのほっとけーき」

・ 大型紙芝居
「ももたろう」
(こぐま社) (講談社)

絵本を積んだキャラバンカーが1月ごとに各都道府県を巡回し、子どもたちにもとの出会いを届ける「全国訪問おはなし隊」。高森町への訪問は3度目となります。

子どもたちは思い思いの1冊を手取り自由に閲覧しました。

その後、福祉センター内の部屋でおはなし会が開かれました。子どもたちは「おはなし隊」の隊長さん

子どもたちが本に親しむきっかけは、絵本を読んでもらうこと。楽しい読み聞かせの時間の中から本の手ざわりやおもしろさを知り、多くの絵本に親しんでほしいという願いから始まり、

や地域のボランティアさんによる楽しい絵本の読み聞かせや、大きな紙芝居のお話にすっかり夢中になっていました。これからも、たくさんの絵本やお話に親しみながら、大きく成長して

農業関連雑誌のご紹介

前回(9月)に続き町図書館が所蔵する農業関連書物を紹介します。



い野菜作り。隔月刊。
a f f あふ
農林水産省発行の月刊
広報誌。

◎図書館ウィーク

1月23日(土)より
2月7日(日)まで

ビジネス支援講演会

1月24日(日)午後1時

①起業の早わかり

町産業連携支援員

前島登志夫氏

②柿と柿渋の活用

大阪府立大学客員研究員

今井敬

◎年末年始休館

12月28日(月)より

1月4日(月)まで

ひつじ満水の爪跡を辿る

柿の里ウォーキング

11月3日(文化の日)、毎年恒例の『柿の里ウォーキング』が開催されました。今回はソウルオリンピック競技代表選手だった酒井浩文さんが率いる「ウォーキング教室」の生徒さん達も参加され、酒井さんから正しい歩き方の指導をしていただきながら、総勢65名が約7kmのウォーキングを楽しみました。

今年、1715年(正徳5年)ひつじ年に起きた、史上最大といわれる大洪水「ひつじ満水」から300年に当たることから、当時の災害の爪跡やその時に出来た地形について、役場の松島高根さんに解説していただきながら天竜川の対岸に渡り、改めて高森町を見つめ直してみようというコース設定でした。「ひつじ満水」とは、梅雨の長雨で水がたまり地盤が柔らかくなっ

た大島山の山体が崩れて、大島川から大量の土石流(山津波)が押し流されて天竜川をせき止め、諏訪湖のような満水になったと記録されている災害のことです。

まず、親水公園から出発し、ひつじ満水の後に建設された「惣兵衛堤防跡」(三六災害時に決壊)と堤防建設時の基点「亀甲石」を見てから、山津波によって流されてきた出砂原の巨石(大石)を巡り、天竜川対岸の豊丘村に渡ってから、惣兵衛堤防を築くための測量



出砂原の巨石

稚児行列

稚児たち華を添える

去る10月25日、下市田・『松源寺』にて、「晋山(しんざん)式」が営まれた。さらびやかな衣装に身を包んだ稚児行列も披露され、観衆は、かわいらしい姿をカメラに納めていた。

晋山式は、寺院に新たな住職が就任する際のお祝いの儀式で、稚児達はこのお祝いの日に華を添えた。

稚児行列は「参加すると丈夫に育つ」とも言われており、約40名の子供たちが僧侶らとともに列をなした。

近隣の住民や、檀家の方々が見物する中、一行は寺までの一本道を練り歩いた。秋晴れの清々しい空と、力強い秋の風の中、子供たちは立派に大役を果たした。



かわいい稚児の面々と

高森町駅伝大会

～タスキをつなぎ力走～



さあ行くぞ!

ム計41チームと、オープン参加で町内出身の仁科利弥さんの計304名の参加で行われました。

高森中学校グラウンドには続々と選手と家族、応援者などが集まり開会式が始まりました。大会長の熊谷町長から「県縦断駅伝では28名中7名が町内出身者で区間賞や自己ベストなど活躍が記憶に新しい。駅伝は次の人にタスキを渡さないと記録が生まれません。すべてのチームの皆さんがタスキを繋いでゴールを目指して頑張ってください」とあいさつがありました。

11月22日(日)第32回高森町駅伝大会が行われました。小学生男子4チーム・女子3チーム、中学生男子10チーム・女子4チーム、一般男子18チーム・女子2チーム

選手宣誓は昨年度優勝チーム・Over the Limitの竹内一弘さんが行い、力強く健闘を誓いました。

いよいよ10時に高森中学校グラウンドを一齐にスタート。南小・垣外・原城・垣外・南小・中学校と6区間17.8キロを「〇〇ファイト!」「パパ頑張れ!」と大きな声援や拍手を受けながら力走しました。

チームの旗を持つたり仮装したり、一般参加者が多く、楽しんでいるのが印象的でした。

大会成績

- 各部門上位3チームは次の通り
- ▽小学男子 ①エスカーダ高森(1時間12分32秒) ②北小4年③The G
 - ▽小学女子 ①高森ミニバス女子(1時間20分33秒) ②KT5③スポ少仲良しバレー部
 - ▽中学男子 ①高森中野球部A(1時間5分19秒) ②高森中サッカー部A③最速の艦隊
 - ▽中学女子 ①陸上競技部(1時間14分46秒) ②チェリーブロッサム籠球部③高森中女子バレー部B
 - ▽一般男子 ①Over the Limit(58分51秒) ②FLAT Guys(1時間28分38秒) ③女子会風スローランニング
 - ▽一般女子 ①FLAT Ladies(1時間28分38秒) ②女子会風スローランニング

まるごと収穫祭

「WAT」イベント村

11月14日(土)・15日(日)の2日間にわたって開催された「まるごと収穫祭」の楽しみの一つ、「コミュニティイベント村」のいくつかを訪ねてみました。

地区内の農産物を販売している、あるテントは、コキビ餅が主人公です。1年間の畑の管理や収穫までの手入れなど、ご苦労があるようですが、「地域の融和と団結を図るために」と、代表の方は語っておられました。ちょうどコキビ餅を求めに来られたご婦人にお

地球温暖化防止活動 93

炭素循環農法はなぜ地球温暖化対策になるのか

環境塾の11月例会はたんち葉、草などを軽く土と混ぜておくと、菌が増殖する。ご飯を食べてみました。玄米で炊いても、5分揚ぎ米でもそれはおいしい。ご飯が出来ました。一粒一粒が生きているような、優等生のごはんです。これぞ本当のご飯の味かと感動しました。皆さんにも是非味わっていただきたいと来年は、まるごと収穫祭に出品しようかと話し合いました。

たんじゅん農法は肥料を直接根から吸わせる従来の農法ではなく、それぞれの土のなかの好気性の発酵菌に育てさせる農法で、発酵菌の餌になる炭素比率の高い木や竹のチップ、籾殻、落葉に必要不可欠です。

菌の餌の炭素を得るためにより多くの二酸化炭素を吸収し、酸素を私達に与えてくれることになりま。です。すからたんじゅん農法に切り替えることは、温暖化対策に必要不可欠です。

の気合いを見せ、自分たちの地区を知ってもらうなど、力強い言葉が聞かれました。

いずれにしても「まるごと収穫祭」が盛大に開催されるように、町民として参加し盛り上げようという意気込みを感じさせられました。



賑わうテント村